

# 賀川豊彦の活動に学ぶ

神戸で「災害時支え合いを」  
シンポジウム

社会運動家賀川豊彦

(1888～1960年)

の活動を振り返り、阪神・淡路大震災被災地から社会運動について考えるシンポジウム「神戸から地球へー共に生きるために」(神戸新聞社後援)が13日、中央区下山手通4の県公館であった。約300人がパネリストらの意見に耳を傾けた。

賀川豊彦献身100年記念事業神戸プロジェクト実行委員会などが主催。

ひょうご震災記念21世

紀研究機構理事長の貝原

俊民氏が講演。県知事時

代、人と防災未来センタ

ーの設置協力を国などに

求める際、「関東大震災

のとき、賀川が災害予防

研究所や安全博物館を設

ける必要性を訴えてい

たということを説得材料

によく使った」と披露し

た。

野田正彰関西学院大教

授は、震災時の被災者支

援の動きなどを振り返り

ながら「災害時に支え合

い、友愛の精神を生かし

ていかなければならな

い」と訴えた。

シンポジウムでは、タ

イのスラム街で生まれ、

16歳の時に学校を開設し

たプラティープ・ウンソ

ンナム・秦さんが「日本

が国際的に人権と平和の

役割を果たすことは賀川

の願いだろう」と話した。

賀川の孫で社会福祉法人

・学校法人イエス団理事

の賀川督明さんは「喜び

や笑顔、幸せ、感謝をシ

ェア(分かち合う)して



いこうと、神戸から発信」  
していきたい」と語り掛

賀川豊彦の社会運動や阪神・淡路大震災から学ぶことなどを話し合うパネリストら＝県公館